

実際の連携経験の有無の差を見ると、連携経験のある層は、「連携して実施する事業の効果が測りにくい」、「(連携して事業を実施する際)行政とエイズ NPO の責任範囲や役割分担が明確でない」などのより具体的な指標や基準を求めている傾向がある。

既に連携の経験のある地域では、その連携の質的な向上や継続が求められているが、そのなかでこれまでの問題点や利点を評価していくことが必要となっている。しかし、NPO 連携は、その必要性の認識は存在するものの、具体的な事例や指標、評価基準はいまだそれぞれの地域ごと・事業ごとに設定されており、客観的にその効果を示すことは困難である。そのため、これらの基準を明らかにしていく研究を推進していくことが今後必要となると思われる。

エイズ NPO への事業委託について、現在委託をしている地方公共団体は、22.7%にとどまっている。その阻害要因としては、「エイズ NPO を受託者として選定する明確な基準がない」、「予算化が困難である」など実際の委託手続きにおける基礎的な情報や資源の不足が課題として挙げられた。また、「エイズ NPO への委託に関する情報が不足している」、「エイズ NPO への委託による効果がどの程度あるのかわからない」など情報や事例も不足している。委託事業に関してその効果を評価したうえでの事例化が必要である。

NPO と地方公共団体の連携による検査事業を実施している団体への調査の回答からは、NPO 連携による検査は地方公共団体が単体で実施する検査よりも、受検数が社会的状況に左右されにくいこと、NPO の特色を生かすことで予防啓発や陽性者支援も実施できることが NPO と地方公共団体の連携による検査事業の利点として挙げられ、NPO 連携は検査事業において有効な手段であることが確認できた。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### (1) 国内一論文

- 嶋田憲司、河口和也、大石敏寛 「地方公共団体-NPO 連携による個別施策層を含めた HIV 対策に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 総括研究報告書 2011. P1-28
- 河口和也、太田昌二、岡島克樹、菅原智雄、新美広、飯塚信吾 「地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策の事業化に関する実態調査」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2011. P29-62
- 大石敏寛、飯塚信吾、太田昌二、岡島克樹、河口和也、新美広、藤部荒術 「地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策に対する地域の実情に応じた支援手法の開発」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2011. P63-78
- 嶋田憲司、飯塚信吾、太田昌二、岡島克樹、河口和也、菅原智雄、新美広、藤部荒術 「地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策の事業化に関する実態調査」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2011. P79-104
- 河口和也・風間孝 著 『異性愛と同性愛』 岩波書店 2010
- 岡島克樹・風間孝・河口和也 訳(アルトマン、デニス著) 『ゲイリベレーションー抑圧と解放』 岩波書店 2010
- 河口和也 「クィアの可視化をめぐる諸問題ーテレビ番組を事例としてー」『論叢クィア』 第3号 pp.24-37 2010
- 嶋田憲司、菊地嘉、河口和也、鳩貝啓美 「地方公共団体-NPO 連携による個別施策層を含めた HIV 対策に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 総括研究報告書 2010. P1-22
- 河口和也、太田昌二、飯塚信吾、新美広、菅原智雄、岡島克樹、永野靖 「地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策の事業化に関する実態調査」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2010. P23-45
- 鳩貝啓美、藤部荒術、太田昌二、大石敏寛、河口和也、新美広、岡島克樹、飯塚信吾 「地

- 方公共団体－NPO連携によるHIV対策に対する地域の实情に応じた支援手法の開発」厚生労働科学研究補助金（エイズ対策研究事業）分担研究報告書 2010. P47-67
- 菊地嘉、太田昌二、藤部荒術、飯塚信吾、苗村直美、絵野沢勝、岡島克樹、河口和也、新美広、菅原智雄 「地方公共団体－NPO連携によるHIV検査事業の評価と質的充実に関する調査」厚生労働科学研究補助金（エイズ対策研究事業）分担研究報告書 2010. P69-96
- 嶋田憲司、飯塚信吾、絵野沢勝、太田昌二、岡島克己、河口和也、菅原智雄、苗村直美、新美広、藤部荒術 「地方公共団体への普及に関する研究」厚生労働科学研究補助金（エイズ対策研究事業）分担研究報告書 2009. P35-70

## (2) 国内－学会発表

- 嶋田憲司、大石敏寛、河口和也、飯塚信吾、太田昌二、藤部荒術. NPO連携によるHIV対策に関する地方公共団体向けの質問票調査. 第25回日本エイズ学会学術集会示説発表、2011.
- 藤部荒術、飯塚信吾、太田昌二、嶋田憲司、大石敏寛、河口和也. STD/HIV診療に関する性的指向に基づいた意識調査. 第25回日本エイズ学会学術集会口演発表、2011.
- 飯塚信吾、藤部荒術、太田昌二、嶋田憲司、大石敏寛、河口和也. 3地域の地方公共団体とNPOの連携によるHIV検査事業の実践. 第25回日本エイズ学会学術集会口演発表、2011.
- 嶋田憲司、太田昌二、大石敏寛、河口和也、藤部荒術、飯塚信吾. 『ライフガード2009-2010』～MSM向け予防啓発事業の実施と普及. 第24回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.
- 太田昌二、嶋田憲司、河口和也、藤部荒術、大石敏寛、飯塚信吾. 個別施策層向けのHIV対策並びにNPO連携によるHIV対策に関する地方公共団体向けの質問票調査. 第24回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.
- 嶋田憲司、太田昌二、藤部荒術、飯塚信吾、大石敏寛、河口和也. STI/HIV診療に関する性的指向に基づいた意識調査. 第69回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.
- 太田昌二、藤部荒術、嶋田憲司、河口和也、大石敏寛、飯塚信吾. 2地域での地方自治体とNPOの連携によるHIV検査事業の実践.

第69回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.

- 河口和也. 『あたしたちはここにいますよ』－日本の地方都市に住む一人のレズビアン の生活事例. 日本女性学会大会口頭発表、2009
- 河口和也. オープン・ザ・ドア－ライフスタイルの商品化とセクシュアリティの不／可視化過程. 第2回クィア学会大会口頭発表、2009
- 太田昌二、飯塚信吾、絵野沢勝、河口和也、嶋田憲司、杉山雅人、嶋貝啓美、苗村直美、藤部荒術. 地方自治体とNPO連携による検査事業化と実践～NPOの立場から～. 第23回日本エイズ学会学術集会口演発表、2009.
- 藤部荒術、飯塚信吾、太田昌二、河口和也、嶋田憲司、杉山雅人、嶋貝啓美. 個別施策層向けのHIV対策に関する地方自治体向けの質問票調査. 第23回日本エイズ学会学術集会口演発表、2009.
- 太田昌二、飯塚信吾、河口和也、杉山雅人、嶋田憲司、嶋貝啓美、藤部荒術「地方自治体とNPO連携によるHIV検査事業の実践」第68回日本公衆衛生学会総会口演発表 2009.
- 藤部荒術、太田昌二、飯塚信吾、河口和也、杉山雅人、嶋田憲司、嶋貝啓美「地方自治体とNPOの連携によるHIV対策」第68回日本公衆衛生学会総会口演発表 2009.

## (3) 海外－学会発表

- Kenji Shimada, Shingo Iizuka, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Toshihiro Oishi, Kazuya Kawaguchi “Do Local Governments in Japan Work in Cooperation with NGOs, and Work for Vulnerable Populations?” The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2011.
- Shingo Iizuka, Kenji Shimada, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Toshihiro Oishi, Kazuya Kawaguchi “Creating Behavior Change through Workshop for MSM: LIFEGUARD” The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2011.
- Shingo Iizuka, Kenji Shimada, Shoji Ota, Arashi Fujibe, Toshihiro Oishi, Hideo Edo, Kazuya Kawaguchi “LIFEGUARD: HIV prevention campaign for gay men through safer sex workshop at gay bars in Japan” XVIII International AIDS Conference

2010

- Kazuya Kawaguchi “We Are Here!: A life case of a lesbian living in local city.” 2nd International Conference on Human Rights (Copenhagen) 2009.
- Kenji Shimada, Hiromi Hatogai, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Keizo Miyachika, Hiroshi Niimi, Masao Kashiwazaki, Kazuya Kawaguchi “ Survey of 128 Local Governments in Japan on HIV/AIDS Measures for Specific Target Population” The 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2009.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

添付資料 1 平成 23 年度に把握できた委託事業一覧

自治体種類	年度	団体種別	事業名	種類
政令指定都市	23	NPO 法人	HIV 即日検査・相談室	検査
都道府県	23	任意団体	エイズ日曜検査事業	検査
政令指定都市	23	NPO 法人	HIV 検査、相談事業	検査
政令指定都市	23	NPO 法人	即日 HIV 抗体検査、夜間 HIV 抗体検査及び相談事業	検査
特別区	23	NPO 法人	HIV 検査・相談事業	検査
特別区	23	NPO 法人	HIV 検査のイベント	検査
都道府県	23	NPO 法人	土曜日昼間 HIV 検査	検査
特別区	23	NPO 法人	HIV 即日検査・相談	検査
都道府県	23	NPO 法人	エイズ検査・相談事業	検査
政令指定都市	23	NPO 法人	日曜日エイズ検査・相談事業	検査
都道府県	23	NPO 法人	エイズ時間外電話相談	相談
都道府県	23	任意団体	男性同性愛者向けエイズ相談室	相談
都道府県	23	任意団体	エイズ相談事業	相談
都道府県	23	NPO 法人	外国籍県民エイズ相談事業	相談
政令指定都市	23	NPO 法人	外国人の電話相談	相談
都道府県	24	NPO 法人	外国人 HIV 電話相談事業	相談
都道府県	23	NPO 法人	東京都エイズ電話相談	相談
都道府県	23	NPO 法人	夜間電話相談事業	相談
都道府県	23	任意団体	夜間電話相談	相談
都道府県	23	任意団体	エイズ予防普及啓発事業	普及
都道府県	23	任意団体	エイズ予防普及啓発事業	普及
特別区	23	NPO 法人	大学学園祭での普及啓発	普及
都道府県	23	NPO 法人	男性同性愛者向けエイズ予防啓発業務	普及
政令指定都市	23	任意団体	エイズ予防啓発事業	普及
政令指定都市	23	任意団体	MSM への予防啓発	普及
政令指定都市	23	NPO 法人	男性同性愛者向けエイズ予防啓発事業	普及
政令指定都市	23	任意団体	同性愛者予防啓発事業	普及
都道府県	23	任意団体	エイズ等予防啓発ボランティアグループ養成業務	その他
都道府県	23	NPO 法人	エイズ治療拠点病院カウンセラー設置事業	その他

## エイズ対策及び行政と NPO 連携に関する アンケートについて（依頼）

「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（通称：エイズ予防指針）」（添付資料1）に基づき、貴自治体または貴保健所におけるエイズ対策の取り組みについてお伺いします。太線枠内の該当する欄に○をつけていただき、記述欄には貴自治体または貴保健所の状況をお書きください。

【註】 回答内容は統計的に処理されますので、個別の自治体または保健所が特定されることはありません。アンケートの集計結果は、平成 23 年度の研究報告書（平成 24 年 5 月頃発行予定）にて報告をさせていただきます。

**ご回答期限：11月20日（日）**

※設問に出てくる「エイズ NPO」とは、HIV/エイズの問題に取り組む NPO 法人等の団体（任意団体も含む）を指します。

### 【1】エイズ対策の実施状況について

貴自治体または貴保健所が実施しているエイズ対策についてお伺いします。

【Q1】 一般層及び各個別施策層に向けてどのようなエイズ対策を実施していますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

施策		一般層	個別施策層			
			青少年	外国人	同性愛者	性風俗産業の従事者及び利用者
普及啓発及び教育	①マンパワー養成					
	②啓発普及活動					
	③地域活動促進					
	④調査研究					
検査相談体制の充実						
医療提供体制の再構築						

【Q2】 エイズ対策の年度予算についてお伺いします。全体の予算額に加え、各個別施策層へのエイズ対策の予算額をお書きください。予算を計上していない場合は、0とお書きください。

年度	全体	青少年	外国人	同性愛者	性風俗産業の従事者及び利用者
21 年度	千円	千円	千円	千円	千円
22 年度	千円	千円	千円	千円	千円

【Q3】 現在、エイズ対策を担当されている職員の方の人数を教えてください。

人
---

【Q4】 現在、エイズ対策を実施するうえで、どのような方策を重視しますか。一般層及び各個別施策層にあてはまる項目に5つまで○をつけてください。

(エイズ対策を実施するうえで) 重視する方策	一般層	個別施策層			
		青少年	外国人	同性愛者	性風俗産業の従事者及び利用者
1 対象層の状況把握					
2 啓発資材の普及					
3 啓発資材の配布／設置（アウトリーチ）					
4 検査・相談の情報普及および利用促進					
5 保健所職員等専門家への研修会の実施					
6 知識・性行動・HIV感染リスク要因等の行動変容に関する調査					
7 人権の擁護および個人情報の保護					
8 医療提供体制の充実					
9 利用しやすい STD クリニックの情報把握					
10 対象層が利用する店舗経営者等への研修会の実施					
11 その他					

【Q5】 現在、エイズ対策を実施するうえで、どのような課題や問題点がありますか。一般層及び各個別施策層にあてはまる項目すべてに○をつけてください。

課題・問題点	一般層	個別施策層			
		青少年	外国人	同性愛者	性風俗産業の従事者及び利用者
1 普及啓発の具体的方法がわからない					
2 対象層への抵抗感がある					
3 対象層とその社会的背景についての理解が不十分である					

4 対象層のコミュニティや当事者団体とつながるルートがない					
5 住民の理解を得ることが困難である					
6 庁内の合意を得ることが困難である					
7 予算措置が困難である					
8 他の業務で多忙である					

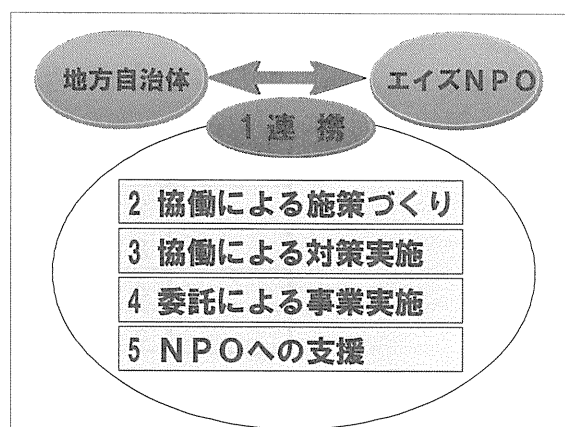
## [ 2 ] エイズ対策におけるエイズNPOとの連携について

ここからは、エイズNPOと連携したエイズ対策の実施状況についてお伺いします。

※ ここでお尋ねする項目は、右図の様に

「1. エイズNPOと協働して行う広い意味での連携」に関することです。

※ さらに、連携のなかでも特に、「2. 協働による施策づくり」、「3. 協働による対策の実施」、「4. 委託による事業の実施」、「5. NPOへの支援」という個別の連携の状況についてもお尋ねしています。



【Q6】 エイズNPOに関する情報（所在、活動内容など）に関する情報を持っていますか。

<input type="checkbox"/>	1 持っている
<input type="checkbox"/>	2 持っていない

【Q7】 エイズNPOの情報をどのように入手していますか。

<input type="checkbox"/>	1 ホームページ
<input type="checkbox"/>	2 団体からの紹介
<input type="checkbox"/>	3 個人からの紹介
<input type="checkbox"/>	4 自治体で独自に情報を入手
<input type="checkbox"/>	5 前任者からの紹介
<input type="checkbox"/>	6 その他（具体的に： _____）

【Q8】 エイズNPOに関してどのような情報が必要ですか。

<input type="checkbox"/>	1 活動内容
<input type="checkbox"/>	2 団体の活動実績
<input type="checkbox"/>	3 団体の信頼性
<input type="checkbox"/>	4 客観的な評価
<input type="checkbox"/>	5 その他（具体的に： _____）

【Q9】 貴自治体または貴保健所では、エイズNPOと連携した経験がありますか。

<input type="checkbox"/>	1 連携の経験がある
<input type="checkbox"/>	2 連携の経験がない

「1 連携の経験がある」と答えた自治体または保健所の方にお伺いします。どのくらいの期間連携を継続していますか？（あてはまる項目に○をつけてください。）

<input type="checkbox"/>	1 1年未満
<input type="checkbox"/>	2 1年以上～3年未満
<input type="checkbox"/>	3 3年以上

【Q10】 エイズNPOと連携して、個別施策層向けのエイズ対策を実施していますか。

<input type="checkbox"/>	1 連携して実施している
<input type="checkbox"/>	2 連携して実施していない

「1 連携して実施している」と答えた自治体または保健所の方にお伺いします。エイズNPOと連携して、エイズ対策を実施している対象層に○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1 青少年
<input type="checkbox"/>	2 外国人
<input type="checkbox"/>	3 同性愛者
<input type="checkbox"/>	4 性風俗産業の従事者および利用者
<input type="checkbox"/>	5 特定の対象に絞っていない

【Q11】 エイズ施策の立案や議論の場（懇談会やエイズ対策推進協議会など）において、エイズNPOと協働していますか。

<input type="checkbox"/>	1 連携している
<input type="checkbox"/>	2 連携していない

【Q12】 エイズNPOと協働したエイズ対策（イベントや研修会の開催、共催など）を実施していますか。

<input type="checkbox"/>	1 連携している
<input type="checkbox"/>	2 連携していない

【Q13】 エイズNPOにエイズ対策事業を委託したことがありますか。

<input type="checkbox"/>	1 現在委託している
<input type="checkbox"/>	2 過去に委託したことがある
<input type="checkbox"/>	3 委託したことがない

「1 現在委託している」もしくは「2 過去に委託したことがある」と答えた自治体または保健所の方にお伺いします。「年度」、「団体名」（下段の団体種別にも○をつけてください）、「事業名」をお書きください。

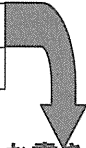
年度：	団体名：	事業名：
-----	------	------



	(任意団体・NPO法人・公益法人・その他)	
年度：	団体名：	事業名：
	(任意団体・NPO法人・公益法人・その他)	
年度：	団体名：	事業名：
	(任意団体・NPO法人・公益法人・その他)	

【Q14】 エイズNPOへ何らかの支援をしていますか。

<input type="checkbox"/>	1 支援している
<input type="checkbox"/>	2 支援していない



「支援している」場合、その団体名をお書きください。

団体名	
-----	--

【Q15】 エイズNPOへの支援とは具体的にどのようなものがあると思われますか。当てはまる項目すべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1 活動費の助成・補助
<input type="checkbox"/>	2 事務所や活動場所の提供・賃貸
<input type="checkbox"/>	3 備品や機材の提供・貸与
<input type="checkbox"/>	4 エイズNPOに関する研修会や講習会の開催
<input type="checkbox"/>	5 講師や専門家の派遣
<input type="checkbox"/>	6 交流の機会の提供（エイズNPO交流イベントの開催など）
<input type="checkbox"/>	7 行政に関する情報の提供
<input type="checkbox"/>	8 活動情報発信機会の提供（広報誌、掲示板、ホームページなど）
<input type="checkbox"/>	9 その他（具体的に： _____）

【Q16】 現在、エイズNPOと連携したエイズ対策の実施が必要だと思われますか。

<input type="checkbox"/>	1 はい
<input type="checkbox"/>	2 いいえ
<input type="checkbox"/>	3 わからない

【Q17】 他の自治体または保健所で実施している、エイズNPOとの連携によるエイズ対策の事例を把握していますか。

<input type="checkbox"/>	1 はい
<input type="checkbox"/>	2 いいえ



「1 はい」と答えた自治体または保健所の方にお伺いします。把握している自治体または保健所名、委託先の団体名、事業名をお書きください。

自治体名または保健所名	団体名	事業名

【Q18】 貴自治体または貴保健所がエイズNPOと連携してエイズ対策を実施する場合、その効果を測る方法がありますか。

<input type="checkbox"/>	1 効果評価の方法がある
<input type="checkbox"/>	2 効果評価の方法はない
<input type="checkbox"/>	3 その他（具体的に： _____）

【Q19】 エイズNPOと連携してエイズ対策を実施することで、どのような効果が期待されますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1 行政ではできない活動を担う
<input type="checkbox"/>	2 コミュニティや当事者との関係の調整
<input type="checkbox"/>	3 行政サービスの補完
<input type="checkbox"/>	4 普及啓発の拡充
<input type="checkbox"/>	5 政策提言・立案への関与
<input type="checkbox"/>	6 行政施策のチェック機能の役割
<input type="checkbox"/>	7 行政の代行業務の実施
<input type="checkbox"/>	8 コストパフォーマンスの向上
<input type="checkbox"/>	9 その他（具体的に： _____）

【Q20】 エイズNPOと連携したエイズ対策を実施するうえで、どのような課題や問題点があると思われますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1 エイズNPOの存在の把握が難しい
<input type="checkbox"/>	2 エイズNPOの活動実績がわからなかった
<input type="checkbox"/>	3 行政のパートナーとなる可能性のあるエイズNPOがない
<input type="checkbox"/>	4 連携するエイズNPOの選考基準をつくるのが難しい
<input type="checkbox"/>	5 連携して実施する事業の効果が測りにくい
<input type="checkbox"/>	6 エイズNPOとの連携による効果がどの程度あるのかわからない
<input type="checkbox"/>	7 （連携して事業を実施する際）行政とエイズNPOの責任範囲や役割分担が明確でない
<input type="checkbox"/>	8 エイズNPOと連携する必要性の共有が困難だった
<input type="checkbox"/>	9 エイズNPOと連携するための内部手続きが整備されていない
<input type="checkbox"/>	10 エイズNPOと連携してエイズ対策を実施した経験がない
<input type="checkbox"/>	11 その他（具体的に： _____）

【Q21】 貴自治体または貴保健所がエイズNPOと連携してエイズ対策を実施する場合、今後どのようなことが必要ですか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

<input type="checkbox"/>	1 エイズNPOの情報の入手
<input type="checkbox"/>	2 エイズNPOを選択する基準
<input type="checkbox"/>	3 エイズNPOへ事業委託する目的の明確化
<input type="checkbox"/>	4 他自治体または保健所での連携の実践事例
<input type="checkbox"/>	5 評価方法の開発

6	エイズNPOの活動への理解
7	特に必要なことはない
8	わからない
9	その他（具体的に： _____）

【Q22】 貴自治体または貴保健所がエイズNPOと連携してエイズ対策を実施する場合、NPOへどのようなことを求めますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

1	専門知識やノウハウ
2	当事者等のコミュニティとのネットワークの所持
3	エイズNPO間のネットワークの所持
4	エイズ対策事業の実績
5	法人格を持っていること
6	専門家の関与
7	経済的に自立していること
8	その他（ _____）

※ここからは連携のなかでも、特に「エイズNPOへの事業委託」という手法についてお伺いします。

【Q23】 「エイズNPOへの事業委託」によるエイズ対策の実施が必要だと思われますか。

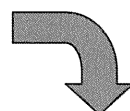
1	はい
2	いいえ
3	わからない

【Q24】 エイズNPOへエイズ対策事業の委託をする場合、課題となるのはどのようなことだと思いますか。あてはまる項目すべてに○をつけてください。

1	エイズNPOへの委託は事業性質上ふさわしくない
2	エイズNPOの存在把握が難しい
3	エイズNPOを受託者として選定する明確な基準がない
4	エイズNPOの能力に問題がある
5	エイズNPOへの委託による効果がどの程度あるかわからない
6	予算化が困難である
7	エイズNPOへの委託に関する庁内理解が不足している
8	エイズNPOへの委託に関する情報が不足している
9	エイズNPOへの委託に関する経験が不足している
10	その他（具体的に： _____）

【Q25】 エイズNPOへの事業委託は他の団体（民間企業・外郭団体等）に事業委託するよりも効果が見込まれると思いますか。あわせてその理由もお書きください。

1	効果が見込まれる
2	効果は見込まれない
3	わからない



その理由は？

記入 年月日	平成      年      月 日		
自治体 名		該当するものに○をつけてください。 1, 都道府県                      2, 政令指定都 市 3, 中核市/保健所設置市      4, 特別区	
記入者 お名前		職種	
連絡先 住所			
電話		F A X	
e-mail			

ご協力ありがとうございました。

## 事例紹介 地域①

### 連携の時期ときっかけ

- ・ 2007年7月 NPOからの提案により開始

### 連携の効果

- ・ 評価方法：受検者へのアンケート、受検数・陽性件数の実績
- ・ 効果：受検数の増加（自治体は減少したが連携検査事業は増加）

### NPOの関与による効果

- ・ 相談件数が多いところが特徴である
- ・ 医療者・NPOなど多様な立場から運営や広報への知恵が生まれる

### 行政との関係性

- ・ 行政からの参加も含む諮問委員会を設け、関係は良い



## 事例紹介 地域②

### 連携の時期ときっかけ

- ・ 2007年10月 自治体のNPO活動への支援制度に応募

### 連携の効果

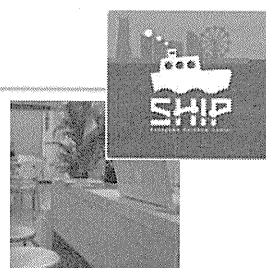
- ・ 評価方法：事業記録、受検者へのアンケート、受検数・陽性件数の実績
- ・ 効果：2008年～2010年で55回の検査実施

### NPOの関与による効果

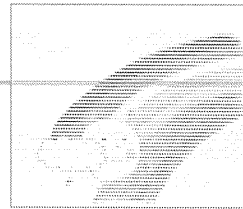
- ・ MSMの受けやすい検査環境を優先可能にした

### 行政との関係性

- ・ 連絡会議を開催し意思疎通をおこなってきた。



## 事例紹介 地域③



### 連携の時期ときっかけ

- ・ 2005年1月 自治体の事業提案制度への応募

### 連携の効果

- ・ 評価方法：自治体の担当による監査が年2回おこなわれる
- ・ 効果：結果通知時に予防情報の提供を行い、受検者の行動変容や当事者との共生という意識を高めている

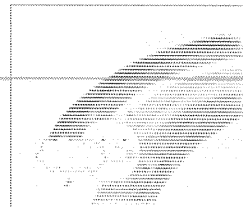
### NPOの関与による効果

- ・ 土曜日の実施により利便性の高い体制を担保している
- ・ 陽性とわかった場合、引き続き陽性者への直接支援をおこなっている

### 行政との関係性

- ・ 長期的に継続している事業のため、担当者だけでなく上級職に向けても報告や相談に上っている。

## 事例紹介 地域④



### 連携の時期ときっかけ

- ・ 2004年7月 NPOから自治体への打診

### 連携の効果

- ・ 評価方法：自治体によるエイズ対策運営委員会、受検者へのアンケート、実績報告
- ・ 効果：受検数の増加、自治体の即日検査への拡大への寄与

### NPOの関与による効果

- ・ 広報から陽性者サポートまでパッケージごとの経験をもつNPOの実績による公共的なサービスの提供
- ・ 啓発、検査、相談、支援など包括的な事業展開を行った。

### 行政との関係性

- ・ エイズ対策推進委員会などの委員としてエイズ施策にも参加している

## 事例紹介 地域⑤

### 連携の時期ときっかけ

- ・2009年4月 NPOからの提案により開始

### 連携の効果

- ・評価方法：受検者へのアンケート、受検数・陽性件数の実績
- ・効果：受検数の増加（自治体は減少したが連携検査事業は増加）

### NPOの関与による効果

- ・検査数が社会的状況に左右されにくい（新型インフル・震災など）
- ・行動変容や陽性者支援といった啓発を含む事業展開が可能

### 行政との関係性

- ・継続した事業展開により綿密な連携を維持
- ・エイズ対策推進委員会などの委員としてエイズ施策にも参加している



## 研究2

地方公共団体－NPO連携によるHIV対策に対する  
地域の実情に応じた支援手法の開発



厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)  
分担研究報告書  
研究2 地方公共団体-NPO 連携による HIV 対策に対する  
地域の実情に応じた支援手法の開発

分担研究者：大石 敏寛 (せかんどかみんぐあうと)  
研究協力者：飯塚 信吾 (特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)  
太田 昌二 (特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)  
岡島 克樹 (大谷女子大学 人間社会学部 専任講師)  
河口 和也 (広島修道大学 人文学部 教授)  
新美 広 (特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)  
藤部 荒術 (特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンの会)

## 研究要旨

地方公共団体におけるコミュニティ向けの取り組みを NPO が支援することで連携し、エイズ対策を事業化することは、今後の地方公共団体のエイズ対策の可能性を広げ、国のエイズ施策に貢献するものである。本研究では、「地方公共団体と NPO の連携によるコミュニティへの効果」を意識し、その実現のために、①NPO の連携による一般層への検査事業の実現と普及、②NPO の連携による個別施策層への普及啓発事業の事業化、③コミュニティ内部への啓発効果の波及、の3つの目的を掲げ、NPO の連携による個別施策層に対する HIV 対策の多様化、地方公共団体の施策策定への貢献を目指す。

本研究は、地方公共団体に対して、MSM 向け普及啓発事業ならびに一般層向け検査事業を NPO との連携により実施し、その事例化と普及を目指し、研究①MSM 向け普及啓発の事業化の推進と評価、研究②地方公共団体-NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進、の2つの枠組みで実施する。

研究①「地方公共団体-NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化」では4地方公共団体12事業において、MSM 向け HIV 普及啓発事業連携を達成した。事業は、「予防啓発プログラム」、「啓発資材開発」、「啓発資材配布」、「専門家研修」の4つを選択し、昨年度策定した事業の成長段階に応じた戦略も検討できるモデルにもとづいた実施を行った結果、4つの事業全てを採用する地方公共団体が2カ所となり、NPO 連携という手法を通じ、MSM 向け HIV 普及啓発事業の充実が着実に進んでいる事例となった。課題としては、今後の実践において、これらの事業拡大モデルの効果評価および他地域での汎用性について、さらに研究を進める必要がある。個別事業の評価については、特に予防啓発プログラムにおいて、参加前、参加直後、参加1ヵ月後の質問票調査で知識の向上、リスク要因の改善、性行動において有意な効果が確認され、行動変容をもたらすプログラムであることが確認された。

研究②「地方公共団体-NPO 連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進」では、地方公共団体との継続した連携により2地域(さいたま市、中野区)の地方公共団体と NPO の連携による検査事業を実施した。さいたま市においては、本年度からの検査事業の拡大を達成し、中野区では検査の受付枠を拡大した検査を実施し、両地域とも大幅に受検者の増加を果たした。NPO 連携による検査事業は検査事業の充実に必要な役割と持つ可能性が高いといえる。また、事例化をもとに「HIV 検査事業連携事例集」を発行し、全国の地方公共団体138団体に向けて地方公共団体-NPO との連携による検査事業の事例を普及した。このことにより、各地域での自立的な NPO 連携の推進や検査体制の質的な充実の促進につながることを期待できる。今後の課題として、これらの事例の活用効果および NPO 連携による検査事業の効果について、科学的に研究を深める必要がある。

## A. 研究目的

昨今のエイズ対策においては、感染の増加が著しい同性愛者や青少年など個別施策層に対して、対象者の状況をふまえた取り組み（個別施策層対策）が強く求められており、平成18年改正後の「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（以下「エイズ予防指針」という。）」においては、MSM向けHIV対策について、1)「感染のリスクを避けられる行動への変容」に繋がる普及啓発、2)NPO/NGO等との連携、3)検査・相談の利便性に対する施策と定量的な指標を含めた施策の目標の設定が求められている。

また、「NPOとの連携」については、「国、地方公共団体、医療機関及び患者団体を含むNPO/NGO等が共に連携する」（秋野公造、エイズ予防指針改正後のエイズ対策について、保健医療科学第56巻3号、平成19年）ことが提唱され、NPOとの連携強化は施策の普及を支える新たな手法として位置づけられており、その必要性が高い。さらに、国と地方公共団体との役割分担についても、エイズ対策の実施においては、「感染の予防及びまん延の防止を更に強力に進めていくためには、互いの比較優位性を十分に踏まえた上で地方公共団体（特に都道府県）が中心となってエイズ対策を実施していくことが必要である」（秋野公造、エイズ予防指針改正後のエイズ対策について、保健医療科学第56巻3号、平成19年）とされ、地方公共団体が中心となって、検査相談体制の充実、普及啓発などのエイズ対策の実施を図ることが求められている。

このようにNPOとの連携を視野に入れて個別施策層を含めたエイズ対策を検討するためには、MSM向けHIV対策の普及においては、予防教育の実施と啓発をそれぞれの個別当事者コミュニティに向けて実施すること、一般層向けのエイズ対策においては検査事業をはじめとする事業を地域コミュニティのために事業化することが重要である。このような地方公共団体のコミュニティ向けの取り組みをNPOが支援することで連携し、エイズ対策を事業化することは、今後の地方公共団体のエイズ対策の可能性をひろげ、国のエイズ施策に貢献するものである。

そこで本研究では、「地方公共団体とNPOの連携によるコミュニティへの効果」を意識し、その実現のために以下の3つの目的を掲げた。

- ① NPOの連携による一般層への検査事業の実現と普及
- ② NPOの連携による個別施策層への普及啓発事業の事業化
- ③ コミュニティ内部への啓発効果の波及

以上から、NPOの連携による個別施策層に対するHIV対策の多様化、地方公共団体の施策策定への貢献を目指す。

## B. 研究方法

本研究は、地方公共団体に対して、MSM向け普及啓発事業ならびに一般層向け検査事業をNPOとの連携により実施し、その事例化と普及を目指し、①MSM向け普及啓発の事業化の推進と評価、②地方公共団体-NPO連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進、の2つの枠組みで実施する。

- 1) 地方公共団体-NPO連携によるMSM向け普及啓発の事業化の推進と評価

個別施策層（MSM）に向けた地方公共団体-NPO連携については、4種類の事業（予防啓発、研修、啓発資材開発、啓発資材配布）の連携を実施した。地方公共団体とNPO連携によるMSM向け普及啓発の事業化を図った結果、4地域で12事業の連携を実施した。

また、特に予防啓発においては、5つの地方公共団体とNPO法人アカーの連携により、個別施策層であるMSMの行動変容を目的としたワークショップ「LIFEGUARD」を実施した。

- 2) 地方公共団体-NPO連携による一般層向け検査相談事業の事業化の推進

地方公共団体との継続した連携により、2地域（さいたま市、中野区）における地方公共団体-NPOとの連携による検査事業を実施し、この実践例について、事例化を行った。

また、これらの事例化および他地域の事例の収集結果をもとに「HIV検査事業連携事例集」を発行し、全国の地方公共団体138団体にむけて地方公共団体-NPOとの連携による検査事業の事例を普及した。

（倫理面への配慮）

「疫学研究に関する倫理指針」を遵守する。調査対象者には調査の主旨について十分な説明と同意を得てインタビュー、質問票調査を行い、研究に対し異議がある場合には、拒否できる機会を保障する。また、個人が不利益を受け

ることのないよう、プライバシーには特段の配慮を行う。さらに、本研究事業全体を通して、個別施策層である同性愛者等に対しては社会的な偏見や差別を受けやすいことへの特段の配慮をもって、対応していくこととする。

### C. 研究結果

#### 1) 地方公共団体-NPO 連携による MSM 向け普及啓発の事業化の推進と評価

##### 1-1) 事業化の推進について

地方公共団体と NPO の連携による利点は、それぞれの機関が有している教育手法、相談のスキル、コミュニティに関する情報等を共有化することにより、より効果的で効率の良いエイズ対策を展開することにある。そのためには、お互いの情報を交換し、理解しあえる場を持ち、課題を明確にし、Deming Wheel (PDCA サイクル) をもとにした施策を展開していくことが必要である。本年度は、平成 19 年度に試作し、平成 20 年度において改良を加えた PDCA サイクルをもとにした「プロジェクト・マネジメントモデル」により、長期の連携を地方公共団体とともに継続した。その結果、地方公共団体との連携を実施し、地方公共団体-NPO 連携事例として 4 地方公共団体 12 事業の MSM 向け HIV 普及啓発事業連携を達成し、ならびに 2 地方公共団体における検査事業連携を達成した。(表 1)。

表 1 地方公共団体-NPO 事業連携実績

	予防啓発プログラム	啓発資料開発	啓発資料配布	専門家研修	検査事業
地域 1	●				
地域 2	●	●	●	●	
地域 3	●	●	●		
地域 4	●	●	●	●	
地域 5					●
地域 6					●

これらの事業は、昨年度本研究において HIV 対策の各地方公共団体における展開を考慮し、モデル化した「HIV 対策の多角化マトリックス」(表 2) をもとに選択した 1) 予防啓発プログラム、2) 啓発資料開発、3) 啓発資料配布、4) 専門家研修の 4 つの事業を参考に、地方公共団体-NPO 連携による MSM 対象の普及啓発事業として実践した。

本年度は 6 地方公共団体 14 事業での連携を達成し、内 2 地方公共団体は 4 事業を実施、1 地方公共団体は 3 事業を実施し、複数の事業における連携を実施した。

表 2 HIV 対策の多角化マトリックス

コミュニティ	提供する啓発事業	
	既存	新規
1) 予防啓発プログラム コミュニティ浸透	2) 啓発資料開発	啓発事業開発
	3) 啓発資料配布 コミュニティ開拓	4) 専門家研修 多角化

##### 1-1-1) 予防啓発プログラム事業連携

小グループレベルの予防啓発プログラム「LIFEGUARD (ライフガード)」を 4 地方公共団体 (東京都、埼玉県、静岡県、北九州市) との連携 (委託・協賛) 事業として、全国 6 カ所で開催した (実施期間: 平成 23 年 10 月 16 日～12 月 10 日)。実施状況の詳細は、表 3 のとおり。

実施については、3 カ所が東京都内において、その他都道府県が 2 カ所、政令指定都市が 1 カ所であった。

LIFEGUARD は MSM を対象としたワークショップ形式の予防啓発プログラムであり、厚生労働省エイズ対策研究事業「同性愛者等の HIV 感染リスク要因に基づく予防介入プログラムの開発及び効果に関する研究 (主任研究者: 大石敏寛)」の中で開発されたものである。その介入の効果は統計的にも有意な結果が得られていることで、地方公共団体においても活用の可能な効果評価を伴ったプログラムである。

予防介入対象はのべ 168 名 (1 会場平均 28.0 名) で、参加者の平均年齢は 29.1 歳であった。(10 代: 5 名、20 代: 76 名、30 代: 58 名、40 代: 19 名、50 代: 1 名、最少年齢 18 歳～最大年齢 51 歳)

プログラムの内容構成は添付資料 2 のとおりである。

表3 LIFEGUARDの実施状況

会場	日程	曜日	行政連携	参加人数
バーM	10月16日	日	○	36
バーN	10月22日	土	○	18
バーS	11月3日	祝木	○	23
バーH	11月23日	祝水	○	40
バーZ	12月1日	木	○	25
バーR	12月10日	土	○	26

1-1-2) 啓発資材開発事業連携

同性間性的接触における HIV 感染リスク要因のアセスメント調査の結果を反映することで科学的な予防啓発資材を企画・作成する事業を3地域で実施した。当該地域の HIV 検査相談等の情報や地域独自の情報についても掲載し、また地方公共団体の要望なども反映することで、地域内の同性愛者等の予防行動および検査相談の普及に資するパンフレットを制作している。

1-1-3) 啓発資材配布事業連携

啓発資材を効果的に当事者に配布するための配布事業を3地域で連携して実施した。効率的な配布にあたっては、検査や相談を行っている施設のほか、同性愛者の集まる商業施設等を重点的に対象とする必要がある。配布にあたっては、施設オーナーやコミュニティ内での配布についての理解や同意を取り付ける作業から実効的に流通・普及させるための配布方法の普及、紹介(クチコミ)などの協力、事後および継続的な管理や関係の維持のための関係づくりまで行われている。

1-1-4) 専門家研修

個別施策層対策を実施する前に医療分野や行政分野など、関係諸機関への研修を1地域で実施した。HIV感染者を講師とし、感染者による体験をもとにしたエイズ教育についての講義(保健師、拠点病院などの医療従事者、教員向け)や研究班員による予防啓発プログラムや同性間の HIV 対策のあり方についての講義(地方公共団体担当、保健所職員向け)、ロールプレイやグループワークなどを利用した研修会を実施した。

1-2) 事業の評価について

連携した事業に関し、その普及効果の把握と地方公共団体の事業化の促進のために、実施した小グループレベルの予防啓発プログラム「LIFEGUARD」の効果評価を行った。

1-2-1) プログラムの評価方法

LIFEGUARD 参加者 168 名のうち、質問票調査を実施したところ、LIFEGUARD 前(プレテスト) 168 名、LIFEGUARD 参加直後(ポストテスト) 168 名、LIFEGUARD 参加 1 ヶ月後(フォローテスト) 106 名から回答が得られ、これらの回答を評価分析の対象とした。

1-2-2) プログラムの評価結果

1-2-2-1) 影響評価

a) 知識・意識(リスク要因)の変化について  
LIFEGUARD 実施前後の知識や意識(リスク要因)の変化を検証するため、LIFEGUARD 参加前、参加直後、参加 1 ヶ月後に、参加者へ次の項目についてアンケート調査を実施した。

○知識項目
(1) HIV の可能性のある体液はどれだと思いますか?あてはまるものすべてに $\checkmark$ をつけてください。(①血液、②汗、③ちみつ分泌液、④だ液、⑤精液、⑥先走り液)
(2) HIV の可能性のある体の部分はどれだと思いますか?あてはまるものすべてに $\checkmark$ をつけてください。(①肛門の中、②へそ、③口の中、④亀頭、⑤尿道口)
(3) HIV の可能性のある行為はどれだと思いますか?あてはまるものすべてに $\checkmark$ をつけてください。(①キスする、②ゴムなしでフェラチオする、③ゴムなしでフェラチオされる、④ゴムなしでアナルセックスする(挿入する)、⑤ゴムなしでアナルセックスする(挿入される)、⑥相互オナニーする)
(4) エイズ検査(HIV抗体検査)について、正しいと思うものすべてに $\checkmark$ をつけてください。(①検査を受けなくても感染の有無は分かる、②検査は全国の保健所で匿名・無料で受けられる、③正確な検査を知るには感染後一定の期間が必要である、④受けたその日に陰性かどうか分かる検査がある)
○リスク要因項目
(5) コンドームを使うセックスに抵抗がありますか?(6点満点(1点:とてもある~6点:まったくない)で評定)